

YELL ～エール～

北フェス クラス演劇

最優秀賞 2年5組「Our story」

優秀賞 2年3組「Doll Society」

ついに迎えた北フェス1日目。クラス演劇本番の日がやってきました。

まず先陣を切ったのは1組の「魔法使いと僕」でした。

魔法使い「マツコ」の力を借りて行動力や才能を手に入れた主人公、優真。しかしそれと引き換えにどんどん心は傲慢になっていき、失っていくものに気付く。本当に自分にとって大切なものが何かがわかった優真には、もはや魔法の力は必要なかった。

「マツコ」の圧倒的存在感と、主人公の心の動きが印象に残る演劇でした。また親友「衛」の演技も劇をしっかりとものにしていました。



次に6組の「art world～時を越える出逢い～」。

とある美術館で自分たちそっくりな絵画を見つけた北高生5人組。そこからタイムスリップした5人は30年前の北高生と出会う。障壁を乗り越え30年前の北フェスを成功に導いた5人が元の時代に戻った時、その絵画の意味がわかる。それは“30年前”に出会った北高生が自分たちを描いたものだった。

主人公たちのユニークなかけ合い、A組リーダーのとぼけたキャラには笑いがこぼれました。



そして優秀賞に輝いた3組の「Doll Society」。

ケータイに依存するあまり、バーチャルな世界に住む自分の「アイコン」に現実世界の自分が取って代わられてしまうミサキ。それはどこにでもいる普通の高校生だったのかもしれない。

派手さはありませんが、しっかりとした脚本に基づき今時のケータイ世代に警鐘を鳴らすメッセージ性に富んだ内容でした。優秀演技賞を獲得した主役の二人以外にも、効果的な音響・照明、大道具も良かったと思います。



午前の部最後に登場したのは、最優秀賞に輝いた5組「Our story」。幼馴染の二人が迷い込んだのは、昔話「桃太郎」の世界。そこで犬、猿、キジ達と出会い、鬼と対決した。しかしその鬼の正体はなんと未来人である「お爺さんとお婆さん」だった。

主役、脇役共にしっかりとした演技。テンポ良く進んでいく展開。さすが最優秀賞！でした。十分にこなされた劇は相当な練習をしたのではないのでしょうか。



午後に入りトップバッターは4組「Re.～変心～」。周囲の人の気持ちを考えようとしなない主人公が、「天使」と「悪魔」の狭間で心揺れながら周囲の様々な人の身体に乗り移っていく。自分の姿を客観的に見ることによって自分を知り成長していく。

主人公の内面を、様々な役者が演じる面白さは演じることの醍醐味だったと思います。天使と悪魔と、なぜか“小柳”（おじいちゃんの分身？）のかけ合い、主人公が乗り移ったお母さんなどテーマを外さず、でもユニークな演技が光りました。



そして最後は2組「人生スゴロク」。神様のきまぐれなさいころで人の人生が決まっていたら、という設定で主人公の高校生が自分の身勝手な欲求を通しながら、友情を裏切ることができず最後は自らが犠牲になっていくという展開でした。

どこかコミカルな神様3人組のかけ合いと、主人公の心の変化。シリアスにテンポアップしながら迎えるドラマチックなラストシーンが印象的でした。



どのクラスが再演に選ばれてもおかしくなかったと思いますが、結果的に3組と5組が選出されることになりました。そして北フェス二日目、再演2クラスは1日目以上に気合の入った舞台を披露してくれました。その結果、上記のとおり最優秀賞に5組の「Our story」が、優秀賞に3組の「Doll Society」が選ばれました。おめでとうございます！また、個人賞として3組の劇で主演した有本あかりさん・森田愛理沙さんに「優秀演技賞」が与えられました。惜しくも再演に残れなかったクラスの演劇にも素晴らしいものが沢山ありましたから、是非胸をはって今回の北フェスを終えてほしいと思います。

さて、次は約1週間後に迫った7月考査です。しっかりとした取り組みを早めに行い、学力アップを図っていきましょう。また修学旅行に向けた準備も始まります。そちらも同時に取り組みを始めていきましょう！

<裏面に生徒諸君の感想を掲載します>

- ☆ 初めての演劇でいろいろな不安もあったけど、今思えばすごく良い思い出です。大きな声ではっきりと感情を込めてセリフを話すことはとても簡単にできることだと思っていたのに、実際やってみるとすごく難しく上手いかず、いろんな人から指摘を受けて勉強になりました。リハと本番の時、音響と照明があったり、役者の声が小さかったりで、再演できるかどうか不安だったけど、5組の劇が選ばれて本当に嬉しかったです。再演は今までで一番いい出来で、心の底から楽しめました。最優秀を取れたのは、みんなの努力と先生のおかげです。2年5組で良かったと思った北フェスでした。(5組 役者)
- ☆ 最初、演出という役職についていた時、あまりこのメンバーの雰囲気になじめず、他人任せにしようとしていました。しかし練習に参加するうちに、一人一人がどんな人なのかわかってきて、次第にこのメンバーで絶対、再演になりたいと思うようになり、このころから演出として後悔のないように自分の意見を言うようになりました。本番、緊張の中、少しミスがあったものの、再演というチャンスをいただけて本当に良かったです。このチャンスを活かして今までで一番の演劇ができ、最優秀賞を皆で取ることができました。今まで全員で試行錯誤してがんばってきたので、この喜びは計り知れません。この演劇の輪の中に入れたこと、一緒に活動できたこと、そして全員で最優秀賞に輝けたことは、この北高生活の最高の思い出です。(5組 演出)
- ☆ 頑張ったことというよりは注意したことは常にお客さん目線で物事を考えるということです。体の角度は斜め45°など細かいところまで良い、わかりやすい劇にするために気を配りました。どの役職の人たちも自分たちの仕事をてきぱきとこなしてくれて、真剣に取り組んでくれて、良い意味でとても楽しかったし満足のいく劇に仕上がりました。もうみんなで放課後残ったり役者の演技を見れないと思うと、とてもさびしいです。だけど良い劇ができたし笑いをとるところはとり、真剣なところは真剣に、とメリハリのついた北高生らしい劇にできたのではないかな、と個人的には思いました。この北フェス前の時間、北フェス中は本当に良かったです。5組がこのメンバーで良かったと心から思えた行事でした。＼(*^w^*)／(5組北フェス委員)
- ☆ 私は今回の北フェスには役者として関わってきました。当たり前のように台本が出来上がって、指摘してくれる人がいるという恵まれた環境の中で、練習することが出来たのは、裏で働いてくれている人がたくさんいたからなんだと思います。これからも周りの人達に感謝することを忘れずに生活していこうと思います。たくさんの人のおかげで本当に楽しい2日間でした。(1組 役者・大道具)
- ☆ 今回の演劇では1年次の時以上にクラスで団結して、1つのものを作り上げることができたと思っています。特に北フェス1週間前の忙しさは半端ではありませんでした。残念ながら、再演クラスに選ばれませんでした。私は自分のクラスが最高の演技を見せたと思います。結果は残念でしたが、心に深く強く刻まれた北フェスでした。とても大変でしたが、楽しかったです。(1組 役者)
- ☆ 今回の北フェスでは準主役級の役を任せていただいて、僕自身も本気で再演2クラスに選ばれるように、個人賞を受賞できるように努力してきました。

でも再演2クラスに選ばれなかったときにクラスの女子の一人が悔し泣きをして、その時は「泣くなよ〜(笑)」とか言ってたけど、家に帰ってみると、何故か悲しくて悔しい気持ちでいっぱいになって涙は出なかったけど、ちょっと目が潤んできました。去年の北フェスでは感じる事のない思いで、やっぱり必死に努力してきたからこそ、悲しさ、悔しさなんだと思いました。

(1組 役者)

- ☆ 私は初め、大道具希望でしたが照明がないということで照明を担当することになりました。クラスの為になればと思って移動したのですが、照明係は私を入れて二人だけ。実際にちゃんと照明を使えるのも2, 3度だけ。正直言って本番までに間に合う気がしていませんでした。しかし本番までには衣装や監督の人が忙しい中手伝ってくれて、本番に間に合うことができました。そんな手伝ってくれる人たちとあれだけの劇を作れたことを誇りに思っています。(2組 照明)
- ☆ 2年生の大きな行事の一つであるこの北フェスの演劇では、大道具のリーダーとして動くことになりましたが、とてもうまくいくものではありませんでした。むしろリーダーとして引っ張っていくのではなく、足を引っ張っていたと思います。それでも他の皆は投げ出さず手伝いをしてくれました。大道具係は放課後に残って活動するように、係の中でも一番時間がかかり、たった一場面を引き立てるためにとても良いものを作らないといけなくて、とても苦労しました。しかし本番が成功し、みんなからは笑顔が絶えず、本当にやって良かったと思えました。今回の経験を経て、より一層クラスの団結力が強くなったと思います。大道具のみんなと、大道具を手伝ってくれたみんなに感謝したいです。そしてこの結束力をもってこれからの一年を楽しく過ごしたいと思いました。(2組 大道具)
- ☆ 私は衣装係…だったのですが、殆どその仕事をしていません。やったことといえば舞台の背景のデザインくらい。頼まれて描いたのですが、自分がクラスに必要とされている感覚がして、嬉しかったです。みんなそれぞれ仕事を見つけ、それに精一杯、力を注いでいる姿は、同学年の目から見てもまぶしいものがありました。私も役職とは違うけれど、私なりにやれることはやったつもりです。だから私も誰かの目にまぶしく映っていればいいなあ、と思います。(2組 衣装)
- ☆ 全体をまとめるという役割で大変な事も多く、説明などをするのに戸惑ったりして、クラスに迷惑をかけてしまうことがあったかもしれませんが、みんな一つのことをやり遂げるのにクラス全員が団結しとても助けられました。結果は残念だったかもしれませんが、私は今までで最高の舞台が本番で出せたと思ってるので悔しいですが悔いはありませんし、やってよかったと思いました。(2組 北フェス委員)
- ☆ 初めは全然役に入り込めなくて演技も全くできなくて、本当に大丈夫かなと思っていたのですが、みんながアドバイスなどを言ってくれたり、良い所は「よかったよ。」などと言ってくれたのですごく助かりました。本番が終わった後に、全員で笑顔で写真を撮ることができたのは、全員が一生懸命頑張ったのと、北フェスの劇が成功した証だと思います。(2組 役者)

- ☆ 北フェスが終わって今までの数々の出来事が思い出されました。本番が始まる前に緊張して落ち着かない私を「がんばって」とクラスみんなが言ってくれました。たった一言だけれどその一言がとても勇気づけられたのを今も覚えています。正直再演は無理かなと思っていただけけれど再演できて本当に嬉しかったです。それも担任の中田先生、クラスみんなのおかげだと思います。こんな充実したものを作ることができたのを一生忘れません。(3組 役者)
- ☆ この短い期間の中でクラスみんなと1つになって頑張れたと思います。再演できて本当によかったです。個人的には役者としてよく頑張ったと思います。私が役者になった理由は人前にでるといつも失敗するのでそういう自分を克服したいと思ったからです。今回はその目標通り、失敗せずに楽しんですることができました。この貴重な経験をこれからにいかしていきたいです。(3組 役者)
- ☆ 私は台本係と照明係、そして大道具係のお手伝いもさせて頂きました。最初は台本係のみの予定でしたが、皆が熱心に作業している姿を見て、「自分も手伝わない」と思い、大道具係の人達と放課後残って作業をしたりしました。しばらくすると、照明係の方からも手が足りないという話をきき、役に立てるならと参加しました。様々な係の手伝いに加わったから言えるのですが、皆自分達の仕事にとっても真剣にとり組んでいて、そのおかげで再演することができたのだと思います。(3組 台本・照明係)
- ☆ 私は今回北フェス委員と助監督という役割を受けました。でも特に大きな仕事をしたわけでもなく、大道具の手伝いをしたり、時々演技に口出しをするといっただけではっきり言って役に立ったとは言えませんでした。ですが、クラス全員が協力し合って当日の朝まで念入りに練習したかいがあって、再演に選ばれた時は本当に嬉しかったです。今回の演劇は全員で作上げたものなのに、数人の友だちが「北フェス委員お疲れ様！」と言ってくれた時は北フェス委員をしてよかったと心から思いました。(3組 監督・北フェス委員)
- ☆ 今年の北フェスは本当に一瞬でした。私は、監督という大役をまかせてもらい、絶対に全員で良い作品をつくろうと強く決心しました。クラスみんなも部活などの用事でとても忙しくて、全員がそろって練習する時間はほとんどなかったけれど、私が「みんな劇の練習をしよう」と言うとみんなすっかりついてきてくれました。目標の「GIANT KILLING」には一歩及ばなかったけど、この北フェスで4組の絆は深まったと思う。本当に楽しかったです。ありがとう。(4組 監督)
- ☆ 劇を作り上げていく時、みんなで良いものを作り上げようという気持ちが教室の熱気と共に伝わってきました。1年次の展示を作り上げる時とはまた違った雰囲気、意見を言わなかった人がいなかったと言っていい程誰もが腐ることなく、自分の仕事を見つけて一生懸命頑張りました。賞をとることはできなかったけど、自分の中では最優秀賞です！来年は最後なので、出られるものには出る！！という勢いで今年より楽しみたいです！！(4組 照明・大道具係)

- ☆ 主役ではないけど、けっこう出番も多くて、初めはもっと少ないと思っていたから自分にこんな役できるかなあと最初はとても不安だった。でも練習をみんなでしているうちに役を演じるのがとても楽しくなって行って、この役で良かったと思えるようになった。再演にはならなかったけど、それが本当に悔しいと思えるくらい頑張れたから、今はとてもいい気分です。クラスみんなとも前よりずーっと仲よくなれて良かったし、劇が終わったあとも、友だちや先生から良かったよと言っていただいてとてもうれしかった。劇中でも自分がツッコんだところがうけて楽しかった。今回の北フェスは本当に本当に楽しかったです！！（4組 役者）
- ☆ 私のクラスの劇の最初の原案は私のものでした。それはとても内容が薄く、全然面白くありませんでした。台本が決まった後、私は演出としてクラスの役に立とうと思いました。しかし、もう一人の演出の人に任せきりで、自分は何ができていいのかと思うこともありました。北フェス1日目劇本番。リハーサルの時より比べものにならないくらい良くなっていて達成感でいっぱいになりました。今思うと私は演出として4組のために何らかの形で協力できた気がします。賞はもらえなかったけれど私はクラス全員で劇を作り上げたことを嬉しく思います。（4組 演出）
- ☆ 今回の演劇でわかったことは一人では何もできなくて、みんながいて初めて成り立つ物事がたくさんあるということです。僕は役が決まったとき正直とても不快で恥ずかしい気持ちでいました。そのことを乗り越えることができたのは、友達や先生方でした。そのおかげで演技にも力が入りました。周りの助けがなかったら絶対自分は役を演じることはできなかったと思います。今は達成感と感謝の気持ちでいっぱいです。また僕たちのクラスは役職に関係なく困っている人がいたら手伝ってあげたり、みんなで掃除をしたりと、とても協力性があつたと思います。（6組 役者）
- ☆ 私は演劇の中で役者という立場だったけれど、前に立つことが少なく、裏で動くことが多かったです。最初は練習に残る人も少なく、この先どうなってしまうのか正直不安な時もありました。けれど本番に近づくにつれて、みんなで話し合ったり、練習がはかどるようになって最後は全員で協力することができたので良かったです。本番はハプニングが色々あって完璧ではなかったけれど、楽しく演劇をすることができました。（6組 役者）
- ☆ 台本づくりにとりかかるところから今まで、私は北フェス委員として取り組んできました。今思うと、1か月以上前から、北フェスは始まっていたみたいです。北フェスを終えた今、一番の感想が「あー良かった」です。達成感というか、すがすがしい気持ちでいっぱいです。北フェス委員は大変だったし、私がやることが遅かったりぐだぐだしてしまったせいでクラスの皆に迷惑をかけたこともあったけど、皆がサポートしてくれたおかげで、このような気持ちで北フェスを終えることができました。
（6組 北フェス委員・照明係）